

地域課題連絡協議会の設置について（案）

## 1. 発端

- ・違法駐輪対策検討の中で、「違法駐輪対策連絡協議会」の設置が提案された。
- ・区民会議の取り組みを考えると、今後も同様な「・・・連絡協議会」の設置が必要な課題が出てくると想定。その都度、新しく「・・・連絡協議会」を立ち上げるのは無理があるのでいろいろな課題を扱うことのできる「・・・連絡協議会」を立ち上げた方が良い。

## 2. 「地域課題連絡協議会」 参考：「セーフコミュニティ」

## 1) 基本的考え方

- ・中原区役所はもちろん、関係行政組織、事業者、関係民間団体、市民活動団体／NPO、地域住民など、多くの主体の協働により、考え、力を合わせて、課題解決・より住みよいまちづくりを進める。
- ・現在、多様な主体によって、様々な取組が進められているが、連携が不十分なまま進められているのが実態ではないか。  
→それらの各取組を横断的に連携させて、既存の様々な取組を1つに結集し、課題解決という共通の目標に向かって取り組みをみんなで進める。
- ・それは、日本では昔から取り組まれてきたことであり、地域の人達が助け合い、協力を積み重ねて、より住みよいまちづくりをしてきたもので、ちょっと工夫を加えるだけ。
- ・地域のつながりが希薄化し、地域の力が衰退しつつあるところも多く、こうした取組を通じて、人と人とのつながりや地域の力を再生する。

（課題、テーマによっては）様々なデータや記録を把握・分析・評価することで、地域での課題、地域の実情を調べ、その原因を究明し、それを取り除く。

## 3. 進め方

## 0) 課題／テーマの選定、方向性の合意・・・区民会議

## 1) 持続可能な推進体制の構築

課題解決の取組を推進するため、課題／テーマに関係している行政組織、事業者、民間団体、市民活動団体／NPO、地域住民などを選び、部門横断的な「地域課題連絡協議会」に参加してもらいます。

## 2) 推進体制構築のポイント

- ・地域住民の参画と協働

- ・既存の地域活動グループの参画と連携
- ・実行組織への様々な組織、団体の参画  
(例：区役所や川崎市、警察、大学、事業者、NPO／市民活動団体、地域住民など)
- ・新たな実施主体をつくるのではなく、今の実施主体が横断的に連携し、住民との協働により更なる推進を図る。
- ・しっかりとした事務局の存在（課題でもあるが）

### 3) 地域課題の抽出

- ・利用可能な様々データ／記録を使って、地域の課題を抽出、分析する。

### 4) 地域課題及びその分析結果からプログラム（行動計画）を作成・実施

- ・住民、行政、事業者などあらゆる分野、部門の人達が地域の課題解決に対して何ができるかを考え、共通の目標に向けて、協力しあって、プログラムを作成する。
- ・実施に当たっては既存の取組や制度を活用し、そして効果を検証しながら、対応策を見直していき、より住みよいまちづくりを推進する。

### 5) 進捗管理

- ・年に1回程度は、プログラムの進捗チェックを行い、推進上の課題を見つけ、対策を練り直す。

#### 4. 課題／テーマによる参加団体（例）

主体	違法駐輪対策	環境,ヒートアイランド 地球にいいこと Prj	防災	e t c
市民活動団体 /NPO, 住民	自転車と共生する まちづくり委員会	環境に関心ある区 民	防災ネット	
事業者	東急電鉄、JR	工業会,労働組合	全事業者	
PTA	○	○		
学校	○	○	○	
商店街(連合会)	○	○		
町内会(連合会)	○	○	○	
危機管理室,消防			○	
警察	○			
環境局		○		
まちづくり局	○	○		
区役所	○	○	○	

以上

## セーフコミュニティ セーフコミュニティって何？

- 事故・けがは偶然の結果ではなく、予防できるという理念のもと、京都府と市町村といった行政はもちろん、地域住民、NPO、関係民間団体など、多くの主体の協働により、府民の全てが健やかで元気に暮らすことができるまちづくりを進めます。
- これはスウェーデンの地方都市で始まった住民の手で安心・安全な社会をつくろうという運動で、これが体系化されたものです。
- 「みんなが事故・犯罪・怪我なく、安心して暮らしていくにはどうすべきか。」を地域住民が考え、力を合わせてその原因を取り除いていこうとするものです。

### 今世界で注目されており、WHOの取組として進められています。

- 日本では昔から取り組まれてきたことで、地域の人達が助け合い、協力を積み重ねて、より健康で安心して暮らすためのもので、ちょっと工夫を加えるだけです。
1. 地域の実情を科学の目でチェック(事故や怪我のデータを把握・分析・評価)
  2. 既存の様々な取組を1つに結集。そしてみんなが進めましょう！
- 地域のつながりが希薄化し、地域の力が衰退しつつあるところも多く、こうした取組を通じて、人と人とのつながりや地域の力を再生し、府民の皆さんとの協働により、安心・安全な地域づくりを進めます。

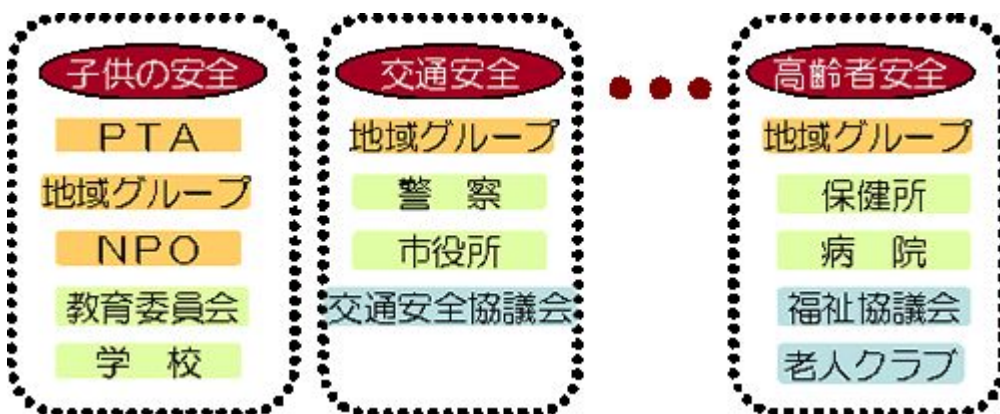
### 地域の実情を科学の目でチェック

様々なデータや記録から、地域での事故やけがが「いつ」「どこで」「どのように」発生したのかを調べ、その原因を究明し、それを取り除きま

す。

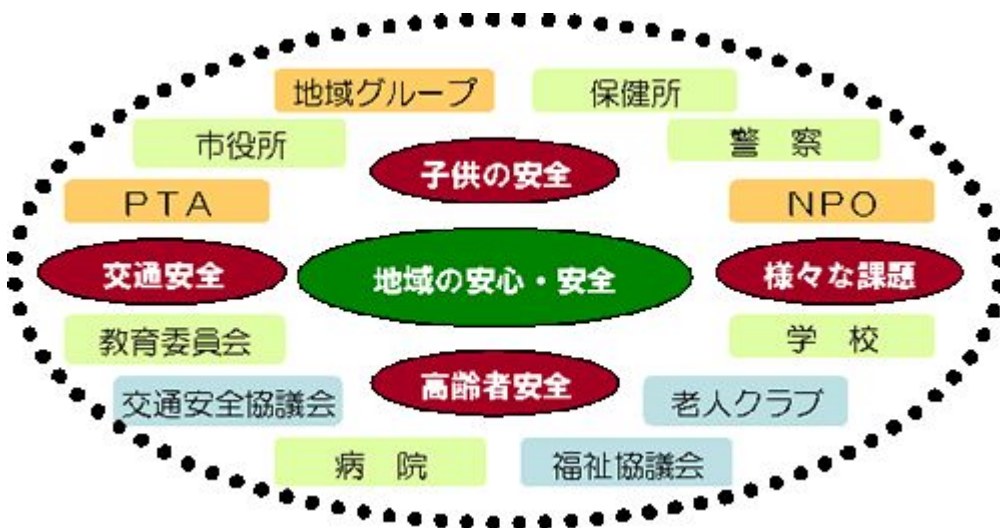
## 既存の様々な取組を1つの目的に向かって結集

現在、多様な主体によって地域の安心・安全に関する取組が進められていますが、下図のように連携せずに進められているのが実態ではないでしょうか。



↓

セーフコミュニティでは、各取組を横断的に連携させて、地域の安心・安全という共通の目標に向かって取り組みを進めます。



## メニュー

- [セーフコミュニティ](#)
- [セーフコミュニティシンポジウム](#)

# セーフコミュニティ どうやって進めるの？

---

## 実現に向けての取組

---

### 1 持続可能な推進体制の構築

---

- 取組を推進するための組織・部門横断的な組織を立ち上げます。
- 住民、行政、企業などあらゆる分野、部門の人達が地域の課題解決に対して何ができるかを考え、「健康で安心して暮らせるまちづくり」を共通の目標に向けて、協力しあって不安材料を除去していきます。

#### 推進体制構築のポイント

- ・市町村の首長のリーダーシップ
  - ・地域住民の参画と協働
  - ・既存の地域活動グループの参画と連携
  - ・実行組織への市町村や国、府の地方機関、警察、大学、医療機関、地域住民、NPOなどの参画
- 新たな実施主体をつくるのではなく、今の実施主体が横断的に連携し、住民との協働により更なる推進を図るものです。

### 2 地域課題の抽出

---

- 利用可能なデータを使って地域を診断します。
- 死亡統計や交通事故統計など様々なデータを活用し、地域の課題を抽出します。
- 要因、場所、年齢別、経年変化などを分析することにより、予防方法を検討します。

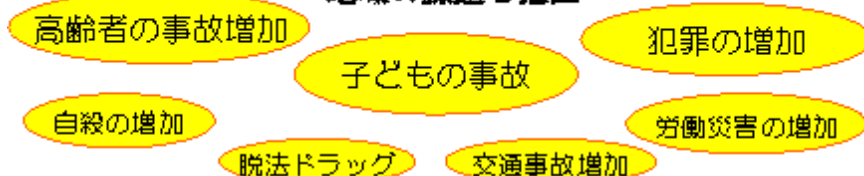
## 地域課題の抽出

### 利用可能なデータを使って地域を診断

- ・ 保健福祉統計年報
- ・ 外傷受診率
- ・ 交通事故統計
- ・ 学校傷害保険データベース
- ・ 救急出動記録 など

要因、場所、年齢別、経年変化など

#### 地域の課題を抽出



### 3 地域課題及びその分析結果からプログラムを作成・実施

- ・ 実施に当たっては既存の取組や制度を活用し、そして効果を検証しながら、対応策を見直していき、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

